

メタ プラットフォームズ A (FB)

【セクター】 コミュニケーション・サービス

【市場】 NASDAQ

【企業概要】

世界最大級のSNS運営企業で、「フェイスブック(Facebook)」、「インスタグラム (Instagram)」、「メッセンジャー (Messenger)」、「ワッツアップ(WhatsApp)」などを運営し、中国を除く世界のSNS市場で高いシェアを保有しています。売上高の97%を広告収入が占め、AR/VR (拡張現実/仮想現実) を含むリアリティーラボ部門は2%です (2021年12月期)。2021年10月に社名を「フェイスブック」から「メタ プラットフォームズ」へ変更し、メタバースへの注力を発表しました。

【業績】 (単位: 売上高、純利益は百万ドル、EPS、1株配当、BPSはドル、ROE、自己資本比率は%、純利益、EPSは調整後ベース)

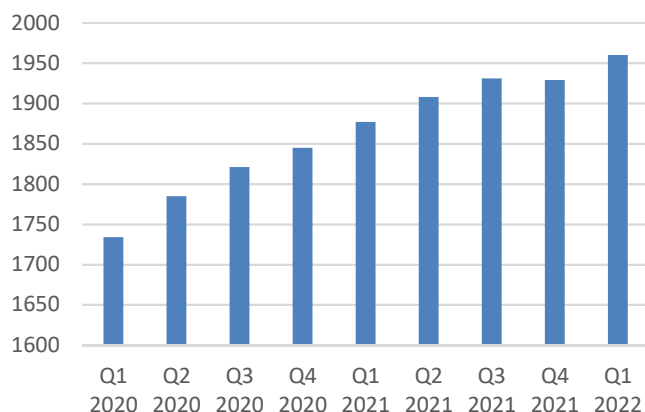
決算期	売上高	純利益	EPS	1株配当	BPS	ROE	自己資本比率
20.12期	85,965	29,146	10.09	0.00	45.0	25.4	80.5
21.12期	117,929	39,370	13.77	0.00	45.6	31.1	75.2
22.12期 (予)	131,314	36,783	13.68	0.00	52.6	25.1	-

※EPS: 1株当たり利益、BPS: 1株当たり純資産、ROE: 株主資本利益率

(出所) BloombergのデータよりSBI証券作成

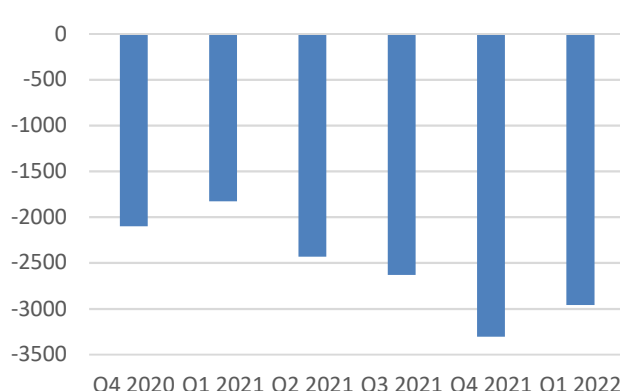
【主要指標】

フェイスブックデイリーアクティブユーザー数 (100万人)



(出所) 会社資料よりSBI証券作成

リアリティーラボ部門の営業損益 (100万ドル)



(出所) 会社資料よりSBI証券が作成

【会社の見方】

SNSはネットワーク効果 (ユーザーが増えれば増えるほどネットワークの価値が高まり、魅力が増すこと) が大きく、フェイスブックやインスタグラムといったSNSは当面の間、高いシェアを維持できるものとみられています。もっとも、直近はTikTokなど一部新興SNSが急速に広まってきているため、今後の動向については注意が必要かもしれません。経営陣は2021年からメタバースへの取り組みを強化していく方針を鮮明にしています。なお、リアリティーラボ部門は赤字が続いており、赤字幅が継続的に縮小するかどうか今後のポイントになりそうです。

【見通し・注目点】

2022年1-3月期の売上高は前年同期比7%増となり市場予想を下回りましたが、今回の決算のポジティブポイントはフェイスブックのデイリーアクティブユーザー数が前四半期比で増加するとともに、市場予想も上回ったことと思われます。前四半期 (2021年10-12月) は同ユーザー数が減少していただけに今回増加が確認できたことで成長への期待が再度高まる可能性があります。マーク・ザッカーバーグCEOは「より多くの人々がこれまで以上に当社のサービスを利用している」と明るいコメントをしています。また、2022年12月通期の費用見通しを従来見通しから引き下げているので、利益押上げの可能性もあります。

本レポートに関するご注意事項

- ・本資料は投資判断の参考となる情報提供のみを目的として作成されたもので、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。投資に関する最終決定は投資家ご自身の判断と責任でなされるようお願いいたします。万一、本資料に基づいてお客様が損害を被ったとしても当社及び情報発信元は一切その責任を負うものではありません。
- ・本資料は著作権によって保護されており、無断で転用、複製又は販売等を行うことは固く禁じます。本資料の内容は作成時点のものであり、信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて作成したのですが、正確性、完全性を保証するものではありません。本資料に記載の情報、意見等は予告なく変更される可能性があります。

手数料及びリスク情報等

- ・SBI証券で取り扱っている商品等へのご投資には、各商品毎に所定の手数料や必要経費等をご負担いただく場合があります。また、各商品等は価格の変動等により損失が生じるおそれがあります(信用取引、先物・オプション取引、外国為替保証金取引、取引所CFD(くりっく株365)では差し入れた保証金・証拠金(元本)を上回る損失が生じるおそれがあります)。各商品等への投資に際してご負担いただく手数料等及びリスクは商品毎に異なりますので、詳細につきましては、SBI証券WEBサイトの当該商品等のページ、金融商品取引法に係る表示又は契約締結前交付書面等をご確認ください。